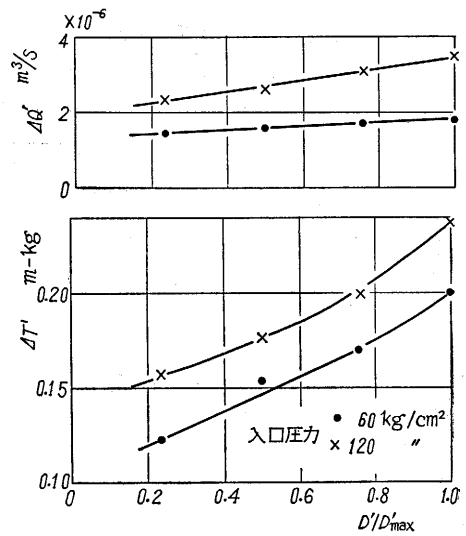
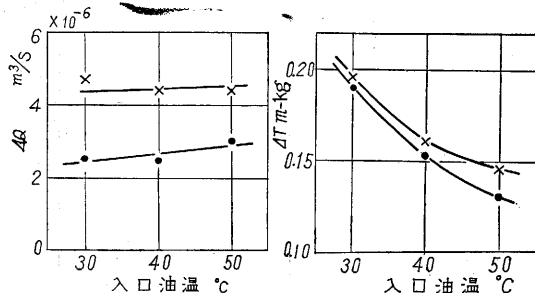


第6図 作用容積比と漏れ損失 ΔQ 、機械損失 ΔT の関係 (ポンプ, 入口油温 30°C , 入口圧力 1.0 kg/cm^2 , $n=1000\text{ rpm}$)

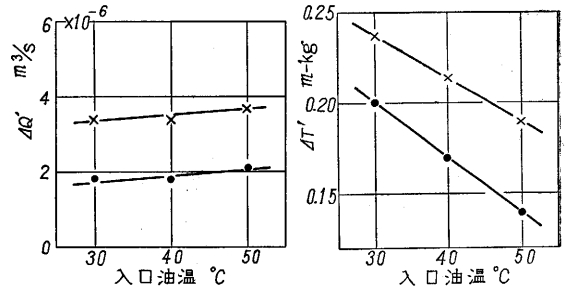


第7図 作用容積比と漏れ損失 $\Delta Q'$ 、機械損失 $\Delta T'$ の関係 (モータ, 入口油温 30°C , 出口圧力 0.5 kg/cm^2 , $n'=1000\text{ rpm}$)



第8図 油温の影響

(ポンプ, $D=15.97 \times 10^{-6}\text{ m}^3/\text{rev}$, $n=1000\text{ rpm}$, 入口圧力 1.0 kg/cm^2 , 出口圧力 $60\text{ kg/cm}^2 \times 120\text{ kg/cm}^2$)



第9図 油温の影響

(モータ, $D'=14.67 \times 10^{-6}\text{ m}^3/\text{rev}$, $n'=1000\text{ rpm}$, 入口圧力 $60\text{ kg/cm}^2 \times 120\text{ kg/cm}^2$, 出口圧力 0.5 kg/cm^2)

5. 結 語

本実験により、アキシヤル・プランジャ形ポンプ、同モータの損失と諸因子との関係を求めることができた。その結果には Wilson の理論ではもちろん、熱くさび効果を導入しても説明できない点があると思われる。

本実験にあたり、古屋七郎、植野剛快両氏の助力を受けた。ここに感謝の意を表す。(1962年7月28日受理)

- 1) 石原智男, 山口 惇, 高尾尚補, 吉沢 茂, 松本 彰
- 2) W. E. Wilson; Positive-Displacement Pumps and Fluid Motors: Pitman Publishing Corp., 1950

3) J. F. Blackburn and others; Fluid Power Control, Chap. 4; John Wiley, 1960

正 誤 表 (9月号)

ページ	段	行	種別	正	誤
12	下6	左	本文	継電器を	継電を
26	12	右	"	dより外の	dよりほかの